

2015 年 7 月 11 日 (土)

富山県民会館 401 号室

14:00~15:30

## 「環日本海地域の経済状況—朝鮮半島との関連から—」

環日本海経済研究所

三村 光弘 氏

### 1. 環日本海地域と日本の物流

日本海を挟んで富山の対岸は韓国、北朝鮮、ロシアである。中国東北部の中でも、遼寧省は大連側で海に面しているため、日本と活発な貿易をしているが、黒竜江省と吉林省には海がないため日本との貿易は少なく、大連まで鉄道で運ばなければならない。しかも、吉林省や黒竜江省の奥地まで運ぼうとすると、大連港から 1000km を超える上に運賃も高く、旧満州時代に造られた鉄道をそのまま使っているため、時速約 60km と遅い区間も多い。



そこで今年、吉林省の北朝鮮国境近くの琿春（コンシュン）という町まで高速鉄道が開業し、吉林省の省都の長春（旧新京）から北朝鮮国境近くまで、大体 3 時間で行けるようになる。8 月には、遼寧省の省都である瀋陽（旧奉天）から丹東（旧安東）まで、今 3 時間 30 分かかっているのが約 1 時間で行けるようになる。丹東は北朝鮮と川を挟んでちょうど向かい合う位置にあり、北朝鮮につながる鉄路がある駅に高速鉄道がやってくる。

日本は島国なので、環日本海地域の国々との物流は基本的に海を越える。韓国や北朝鮮、ロシアとは海でつながっているが、黒竜江省や吉林省へは汽車で内陸から行かなければならない。吉林省の東端は中国と北朝鮮、ロシアの 3 国国境が交わり、日本海まで 15km しかないが、そこからは日本海に出られない。

韓国とは 1965 年に国交正常化し、今年で 50 年になる。東京の韓国大使館で開かれた 50 周年式典では安倍首相が祝辞を述べ、ソウルでの式典では朴槿恵大統領が祝辞を述べた。少し関係が良くなってきたと言われているが、少し緊張をはらんだ形で 50 周年を迎えている。

北朝鮮とは、国交はない。「万景峰 92」号が新潟と元山を行き来していたが、今は経済制裁中のため運行していない。それまでは、北朝鮮は日本からいろいろなものを買っていたし、1980 年代後半から北朝鮮の対日貿易はずっと黒字だった。マツタケ、ベニズワイガニ、ウニなどの農水産物や背広などの委託加工品が日本に入っていた。私が環日本海経済研究所（ERINA）に入った 2001 年ごろは、北朝鮮製の背広を日本で時々見た。中国製よりも割と安く品質がいいという評判だったが、2002 年の第 1 次日朝首脳会談で拉致を認めて以降、日本の北朝鮮に対するイメージがどんどん悪化し、北朝鮮製の商品に対する需要が

減ってしまった。

ロシアとは、いろいろな港でつながっている。日本は最近、ロシアとの貿易量が非常に増えているし、投資も増えている。これまでは、モスクワやサンクトペテルブルク（旧レニングラード）などヨーロッパ側のロシアへの進出が多かったが、最近では沿海州のウラジオストクにトヨタとマツダの組立工場ができ、ロシア企業との合弁で日本車の組み立てをしている。

富山は昔からロシアへの中古車輸出の大きな拠点となっている。ロシアに対する中古車輸出は結構多く、極東ロシアにおける日本車に対する信頼は絶大である。走っている車の 8 割が日本の中古車である。昔は携帯品として持っていけるような 5 万円以下のぼろぼろの車が売られていたが、ロシア経済の回復とともにインターネットで注文するようになり、それを仲介する会社も出ているそうである。日本でもちょっと高い、3 年落ちぐらいの車が結構走っている。

新潟の中古車業は廃れてしまって、富山と同様、新潟—ウラジオストク間の航空路もなくなってしまった。今は 7 月末～8 月末の間に週 1 便、ウラジオストクとハバロフスクにチャーター便が飛んでいる。昔は北朝鮮に行くとき、ウラジオストク経由が便利だった。その後、ロシアと日本の間の人の流れは減り、航空路もなくなっていった。

中国には、日本から直行便の航空路がたくさんある。船便は遼寧省には大連便があるが、吉林省、黒竜江省は北朝鮮やロシアの港を通して日本海に出る航路を模索している。

ロシアに行くルートとしては、鳥取県の境港から韓国の東海市経由でウラジオストクに行くフェリーが週 1 便出ている。新潟からもそういうフェリーを就航する動きがあるが、ロシアの極東部は人口が 700 万人しかおらず、産業集積があまりないので、投資しにくい。極東は、新潟から 1 時間半、富山から 2 時間である。われわれは、台湾や香港によく旅行に行くが、距離的には実はロシアの方が近い。

モンゴルは、ロシアと中国に挟まれている。西にカザフスタンがあるが、国境で接していない。すると、モンゴルは、日本や韓国などと貿易するとき、ロシアか中国を経由しなければならない。モンゴルは現在、天津港経由が多いが、それ以外にロシア経由でウラジオストクから出したり、北朝鮮から出したり、さまざまな港を使って商売しようと頑張っている。中国、ロシアのどちらかに依存すると、関係が悪くなったときに困るので、現状は中国との経済関係が非常に圧倒的だが、ロシアとの関係も重要視しており、したたかな経済外交を展開している。

当研究所が環日本海地域の国々に調査に行くと分かるのは、国によって文化もやり方も違うことである。例えば、ロシアに入国するとき、パスポートを 1 ページごとにブラックライトで確認する。パスポートは偽造防止のため特殊な光を当てると光るので、全ページを確認する。別に私を疑っているわけではなくて、彼らは、不審な人物が入ってこないように国境を守っているのである。

日本の密漁船が中間線を越えて少しでもロシアの方に入ると、警備艇が飛んできて、実

弾を撃つ。国境は絶対守るとするのが、ロシアの特徴である。ロシアの文化では、パスポートを速く確認して効率を上げるよりも、厳重にゆっくり確認する方が重要である。一方で中国、北朝鮮、韓国は割と日本に似ている。

## 2. 北朝鮮経済の現状

北朝鮮経済の現状を一言で言うのは難しい。北朝鮮は今年、干ばつがひどいので、ひょっとしたら数百人レベルで餓死者が出ているかもしれない。しかし、昔あったような 10 万人単位が亡くなるような大規模な飢餓はなくなった。食料が少なくなって亡くなる方はゼロではないと思うが、北朝鮮の総人口は 2001 年が 2225 万人、2013 年が 2454 万人と増えていて、毎年人口が減るような厳しい飢餓の時代は終わっている。しかし、白いご飯を毎日 3 食食べられる人は、今でも北朝鮮では割と幸せな人だ。3 食食べられても、その中の 1 食はトウモロコシ麺の場合が多い。

2013 年の 1 人当たりの国民所得は、韓国銀行の推計で 1253 ドルである。日本は 4 万ドル弱、韓国は二万数千ドルである。私は、韓国銀行は甘めの推計を出していると思う。なぜなら、北朝鮮の GDP が少なくなると、北朝鮮の脅威も小さくなるからだ。北朝鮮研究者の試算では 800 ドル程度ともいわれる。韓国にとって北朝鮮がどれほど怖い存在なのかという度合いによって変わるわけである。GDP を小さく見積もれば、軍事予算が減らされることになる。推計が正しいとすれば、同等の 1 人当たり GDP を持つ国には、中央アジアのキルギス、アフリカのチャド、ミャンマー、バングラデシュなどがある。つまり、北朝鮮は経済的には貧しい国である。

ただ、北朝鮮は日本の植民地時代、重化学工場が盛んだった。北朝鮮は、日本がつくった経済の基盤を国有化する形で受け継いでいる。第一次産業、第二次産業、第三次産業の比率は 22 : 36 : 42 (2013 年) であり、北朝鮮はまさに工業化社会である。第一次産業を機械化して、そこから 250 万~300 万の人を動かして製造業や加工工場の低賃金労働者として雇って生産することは可能かもしれない。もう少し程度の高い、背広や着物の帯などの付加価値のあるものを作ると、北朝鮮でもペイできるのではないかと思う。

1990 年にソ連と韓国が国交正常化し、1991 年にソ連が崩壊、92 年には中国と韓国が国交正常化した。北朝鮮にとって 1990~92 年は激動の年である。中国とソ連は共に朝鮮戦争を戦った仲だから、韓国と北朝鮮は社会主義圏と資本主義圏の代理戦争を戦ったといえる。その支援をしてくれていた存在がなくなったわけである。中国も今まではあまりお金を介在しない取引をしていたが、韓国と国交正常化してから、北朝鮮との貿易をドルで行うようになり、1992 年以降はきちんと金を払うように言われた。北朝鮮は外貨がないから輸入ができない。

実は、1989 年にはソ連も含めて 250 万トンの石油を輸入していたが、今は 4 分の 1 ぐらいになっている。エネルギーの不足は経済に大きな影響を与えていて、車も走れないし、農業用ポンプも動かない。電力を増産しようとしても石炭を掘ることもできない。この悪

循環に一度入ると、電力の増産はとても難しい。だから、今でも北朝鮮は電力事情がとても悪く、電気がついたり消えたりする。ただ、最近では発光ダイオードの電球などが増えたので、大きな電圧変動があっても取りあえず電気はついている。

それでも、大きく見れば、経済は回復基調である。1996～98年の飢餓では十数万人が亡くなったという推計が出ているが、その時期から見れば良くなってきている。ただ、ソ連が崩壊し、経済危機が始まる前の水準までには戻っていないと思う。

今年 1 月 1 日、金正恩第一書記が新年の辞で、食料は量だけでなく質を求め、水産物や畜産物などのタンパク源をいろいろ探して食べられるようにしようと演説した。実際に平壤へ行くと、子どもの体格が小さい。それは、体格が作られる時期に食糧危機を経験したからである。

北朝鮮では、人民生活の向上という言葉がよく出てくる。これが現在の経済政策において非常に重要なキーワードである。食べられるだけでなく、体を丈夫にすることが一番重要なプロジェクトである。そういう意味では、国民をまだきちんと食わせていない。このように、北朝鮮の経済はまだまだだが、良くなっている。この二つの側面を見る必要があると思う。

### 3. 社会主義企業管理責任制度

北朝鮮では今、「社会主義企業管理責任制度」という新しい経済政策が行われている。生産現場の権限を拡大して貿易を自由にしたり、ノルマを超えてたくさん生産したら勤労者にその分をボーナスとして与える制度を導入したりした。農業では今まで 7～10 人の組で畑を耕し、毎年担当する田んぼが替わっていたが、今は 1～4 人を一つの田んぼの担当にし、最低 3 年は固定した土地を耕す制度にした。肥料や堆肥を考えて作り、生産が増えれば、その分を現物でたくさんもらうことができる。もちろん国に取られる部分はあるが、とにかく一生懸命頑張ったたくさん作ればたくさんもらえる制度になっている。

逆に、働く人と働かない人の格差もつく。例えば A 工場では靴を作り、B 工場では機械を作り、C 工場では化学繊維を作っている。A 工場は材料さえあれば生産でき、物が良ければ売れていく。B 工場は 1 日に 4 時間しか電気が来ないので、あまり業績はよくない。C 工場は、電気がないと動かないから、ずっと稼働していない。北朝鮮は社会主義国だから自分で入る工場は選べず、国が就職を決める。すると、一生懸命働くつもりがあっても、給料に格差が生まれてくるのである。

制度の過渡期なので、そういう違いが出て仕方がない一面はあるが、C 工場の場合、本当は出勤しないけれども、出勤簿に押印してもらうためにお金を払うケースもある。自分は市場で商売し、もうけた中から工場の労働者としての身分をキープするためのお金を払う。北朝鮮は、どこに所属するかによって人が値踏みされる社会である。江戸時代のように、どこに属しているかでその人の格が決まってしまうので、お金を払って身分をキープする。そういう形で上納金が入り、企業が生きていけることも実際にはある。

貿易収支を見ると、2003 年ごろから輸出入が増え、今は 90 億ドル近くになっている。2000 年と比べると 4 倍以上になっている。2013 年は韓国との関係が悪化したので、南北交易を含むと貿易額は下がっているが、含まないと上がっている。貿易相手国は、韓国を抜けば 90%以上が中国である。日本は、2006~08 年と下がってきて、今はゼロである。2002 年ごろは、日中韓で 3 分の 1 ずつだった。昔は日本が結構重要なパートナーだったが、最近はそうではない。

穀物生産の推計量を見ると、去年は約 500 万トンで、毎年増えている。中でもトウモロコシが多い。もともと朝鮮北部はトウモロコシを食べる文化はなく、アワのおかゆを食べていたが、中華人民共和国が 1949 年に成立して、アワの輸入がなくなったためである。

平壤では高層住宅を造っていて、そのために大量の鉄やコンクリートが要る。部屋によっては曲線の窓があるので、曲線ガラスを中国から輸入しなければならない。北朝鮮は 2012~2013 年、月間 1 億ドル(約 100 億円)の無煙炭を中国に輸出していて資金が潤沢だった。そのころに比べると、今、無煙炭の値段は 3 割ぐらいに落ちている。鉱物の輸出に頼る構図がうまくいかなくなっており、今年は干ばつで食料生産も多少落ちると思うので、外貨事情は厳しいのではないかと思う。

北朝鮮の人は、副収入が暮らしの重要な部分を占める。誰がどこに属しているのかが重要な国だから、男性は大体会社に行き働く。家も会社の社宅として与えられる。だから、例えば夫は工場労働者で給料 3000 ウォン、奥さんは市場で働いて月間 100 万ウォン稼いでいるようなケースがある。奥さんが市場で商売していても、工場労働者の妻だから、旦那さんを助けるためにやむを得ず商売で食いつないでいると社会的に認められるし、十分な教育や福祉も受けられる。日本も少し前まではそうだったように、どこに属しているかが非常に重要な国である。

#### 4. 北朝鮮と国際政治

韓国はソ連と 1990 年に、中国と 1992 年に国交を結んだ。北朝鮮は日本、アメリカとまだ国交がない状態である。南北は、どちらの体制が正しいのかという競争をずっとしてきた。基本的には、86 年のアジア大会、88 年のソウルオリンピックで南が勝ったことになっているが、北はなかなか自分が負けたとは認めない。北の目標は、もともと朝鮮半島の解放であり、自分たちが全てを支配し、韓国を負かすことだったが、今では現体制の生き残りが目標となっている。だから、韓国を認めざるを得ない状況になっている。

そういう中で、今問題になっているのは、アメリカと中国、アメリカとロシアが緊張を深めていることである。「新冷戦」とも言われるが、北朝鮮にとっては、アメリカと中国、アメリカとロシアがけんかしてくれると助かる。自分たちがロケットを発射しても国連でひどいことを言われることはなく、ロシアや中国が北朝鮮の肩を持つてくれるのではないかという期待がある。アメリカは、アジアリバランス論で中国を、あるいはウクライナ問題でロシアを牽制しているから、北朝鮮にとっては非常に有利な状況である。

一番の問題は、北朝鮮がフリーハンドで核ミサイルを開発していることである。以前は、6カ国協議で凍結を約束して、国際監視団を一応送り込んで原子炉を動かしていないことを確認したのだが、今はやりたい放題である。中ロも北朝鮮の核開発には反対なのだが、アメリカがあまりにも敵対してくると、北朝鮮というカードを使ってアメリカをいじめようかという気にもなる。実際に、ロシアではそういうことを言う人が最近力を持ってきている。それでは、非核化はできないのではないかとということで問題になっている。

オバマ政権の戦略的忍耐とは、北朝鮮を相手にしないとやっているのはいいが、核開発がそのまま続いている点では非常に大きな問題で、そのうち、アメリカ本土やグアム、ハワイまで届くようなミサイルを開発できるのではないかと。多分、それを成功させたとき、アメリカは真剣に北朝鮮への先制攻撃を考え始めるとし、情勢が一気に変わると思う。アメリカは関心がないときはぼうっとしているが、自分がやられそうになると戦争をしてもいいという状況になってしまう。戦争が起こると、日本は周辺事態となり、大変困る状況になる。

そういう緊張が少しずつ緩和されていくと、中国東北部と朝鮮半島の西海岸（ソウル、平壤、遼寧省）、東海岸が一体化し、中国、朝鮮半島北部経由で日本と中国東北部を結ぶ物流ルートも復活し、北朝鮮の変化が経済の活発化につながっていくだろうと思われる。朝鮮半島に緊張緩和が訪れて、朝鮮半島と中国東北部が高速鉄道でつながれば、本当に一つの国のような感じである。

韓中自由貿易協定（FTA）が結ばれたが、北朝鮮があるから、今はまだ地続きになっていない。だから、今は船で行き来しているが、今後、朝鮮半島の一体化が現実化すると、韓国の隣国は中国になる。朝鮮半島は3000年以上の間、何百回も中国に侵略されているから、韓国の人も北朝鮮の人も中国の怖さをよく知っている。韓国や北朝鮮の人に「中国が嫌いか」と聞いたら、大抵は「友好国だ」と言うが、本当に好きかと聞いたら、日本人には言いたくないけれども、「嫌い」と答える人も少なくない。

福岡から瀋陽まで9時間で行けようになる。ということは、「爆買い」中国人が福岡にどれだけやってくるのか。福岡から見たら、朝鮮半島との関係はとても重要である。だから、福岡、上海、釜山は、地方間同士の交流がものすごく盛んで、一生懸命やっている。来る時代がやっぱりもうけるために、今から布石を打っておかなければいけないと考えているからである。